

三峰川総合開発NEWS

いのちとくらしをまもる
防 災 減 災



国土交通省 三峰川総合開発工事事務所

国内初 美和ダム再開発「ストックヤード施設」完成式を開催します

美和ダムの上流にあるストックヤード施設は国内初の施設で、洪水時に土砂バイパストンネルを通してダム下流へ土砂を流すために、分派堰を越えてダム湖（美和湖）に流入・堆積した細かい土砂を浚渫（しゅんせつ）して一時的に貯めておく施設（現在は試験運用期間中）です。

施設は令和2年度に完成して令和3年度に完成式を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の関係で延期しておりました。この度、完成式を下記のとおり開催しますので、お知らせします。

1. 日 時 令和4年11月6日（日）10:30～12:00（受付10:00～）
2. 場 所 高遠さくらホテル（伊那市高遠町勝間217）
3. 主 催 国土交通省 三峰川総合開発工事事務所
4. 概 要 式辞、挨拶、工事概要説明、南アルプス太鼓（長谷中学校生徒）、くす玉開披 等
5. 資 料 別添のとおり
6. 配 布 先 伊那記者クラブ
7. 取材について 別添の申込用紙にご記入の上、令和4年11月2日（水）までに下記Mail宛てにお申し込み下さい。
8. その他
 - ・新型コロナウイルス感染防止対策等状況により、中止または延期となる場合があります。

問い合わせ先

国土交通省 三峰川総合開発工事事務所

■式典に関すること

副所長（事務） 植田 隆一 または 総務課長 中川 利博

■事業に関すること

副所長（技術） 丹羽 隆志 または 調査課長 岡本 明

TEL 0265-98-2921 E-mail cbr-mibuso@mlit.go.jp
〒396-0402 長野県伊那市長谷溝口1527

美和ダム再開発「ストックヤード施設」完成式 取材申込書

下記に必要事項を記入して、メールにてお申し込み下さい。

宛先：国土交通省 中部地方整備局 三峰川総合開発工事事務所

E-mail：cbr-mibuso@mlit.go.jp

《 申し込み期限：令和4年11月2日(水)17:00まで 》

| | |
|---------|-----------------------------|
| 貴社名 | |
| 氏名(代表者) | |
| 連絡先 | TEL: E-mail: 携帯(緊急用): |
| 参加人数 | 人(代表者含む) |
| 駐車車両台数 | 台 (車種:) |

※注意事項

- ・報道関係者であることがあかるように、腕章または名札の着用をお願いいたします。
- ・参加者多数の場合、人数調整をお願いする場合があります。
- ・駐車場所は、現地駐車場係の指示に従って下さい。

- ・新型コロナウイルス感染防止対策(マスク着用及び手指消毒、発熱症状等体調が優れない方のご入場お断り等)を徹底いたします。
- ・参加される方におかれましても、ご協力いただきますよう宜しくお願いいたします。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況により、本式典の開催方法について変更する場合があります

美和ダム再開発事業の概要

美和ダム再開発の効果 洪水氾濫から人々の暮らしを守るとともに、ダム機能の保全を図る。

人々の暮らしを守る

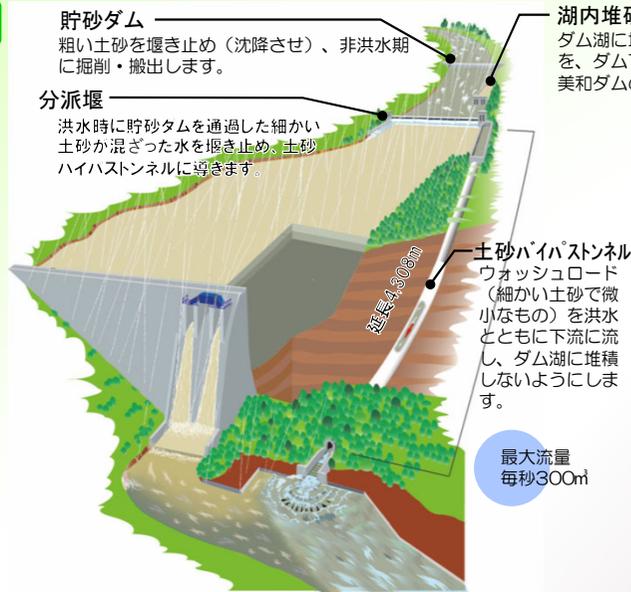
戦後最大規模の洪水である昭和58年9月洪水、平成18年7月洪水と同規模の洪水が発生しても、河川水位の低下を図ることができ、洪水氾濫から天竜川上流の人々の暮らしを守ることができ、基準地点天竜峡において、約200m³/sの流量を低減(水位低下0.6m)させる効果があります。

ダム機能の保全

土砂バイパス施設(土砂パイストンネル、分派堰、貯砂ダム)の整備により、ダム貯水池内への土砂流入を抑制します。

また、ストックヤード施設の整備により、ダム貯水池内への堆砂を抑制します。

さらにこれらの施設により、ダム地点における土砂移動の連続性を確保します。



ダム貯水池への土砂流入

三峰川の洪水の特徴は、水とともに多量の土砂が流出することにあります。これまでの度重なる洪水により、貯水池内に多量の土砂が堆積しました。

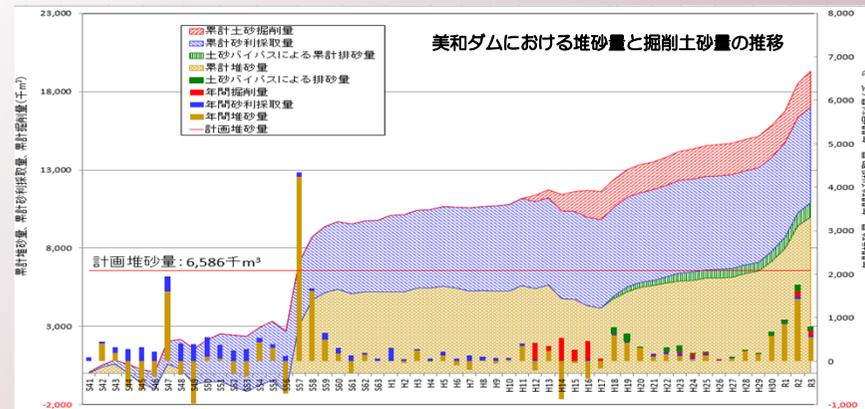
このため、美和ダム再開発事業として湖内堆砂掘削を実施し、貯水池の有効容量のうち約200万m³の堆積土砂を掘削し、ダム機能を保っています。

おもな災害

天竜川流域では、災害がくり返されており、特に昭和36年、58年、平成18年には流域に多くの被害をもたらしました。

おもな災害とダム貯水池への土砂流入

| 発生年月日 | おもな被害状況(被災地域、浸水面積、浸水戸数等) |
|------------------------|---|
| 昭和32年6月28日(梅雨前線) | 洪水面積 不明 被災家屋535棟等(全壊56、半壊102、床上377) 死者・行方不明者20人 |
| 昭和36年6月28日(梅雨前線) | 洪水面積 534ha(飯田市、駒ヶ根市他) 被災家屋11,953棟(死出・全壊896、半壊605、床上1,334、床上11,118) 死者・行方不明者130人 |
| 昭和57年8月3日(台風10号) | 洪水面積 70ha(飯田市他) 被災家屋 112棟(全・半壊20、床上10、床上82) |
| 昭和58年9月28日(台風10号、秋雨前線) | 洪水面積 289ha(飯田市、駒ヶ根市他) 被災家屋 1,491棟(全・半壊49、一部破壊72、床上150、床上1,220) 死者・行方不明者4人 |
| 平成11年6月30日(梅雨前線) | 洪水面積 8ha(飯田市、駒ヶ根市他) 被災家屋 29棟(床上1、床上28) |
| 平成18年7月19日(梅雨前線) | 洪水面積 689ha(諏訪市、伊那市、飯田市他) 被災家屋 2,868棟(全壊18、半壊36、床上789、床上2,025) |



美和ダム再開発事業の内容 洪水調節機能強化と貯水池堆砂対策を行っています。

洪水調節機能の強化

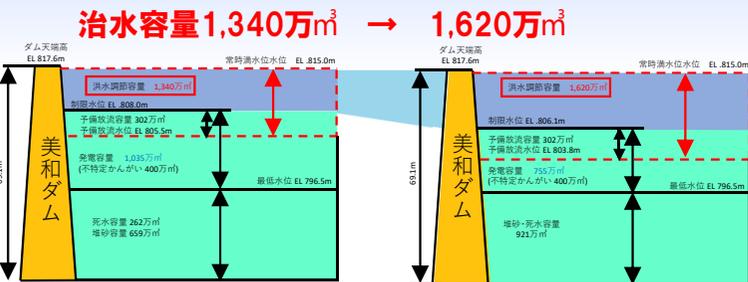
①湖内堆砂掘削

美和ダムの機能を維持するため、貯水池内の堆積土を掘削しました。陸上掘削、ダンプトラック運搬の方法で、約200万m³を施工し、掘削土砂は圃場整備等の地域の基盤整備に利用しました。

(伊那市長谷市野瀬の圃場整備で約100万m³の堆積土を利用)

②利水容量の一部振替

発電容量のうち280万m³を治水容量に振替え、洪水調節機能を増強します。

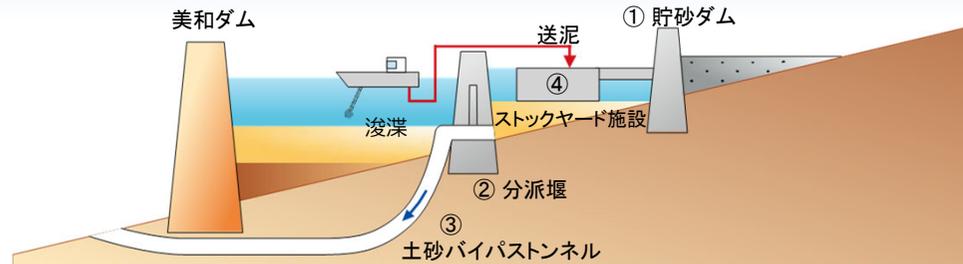


発電容量の280万m³を治水容量に振り替える

貯水池堆砂対策

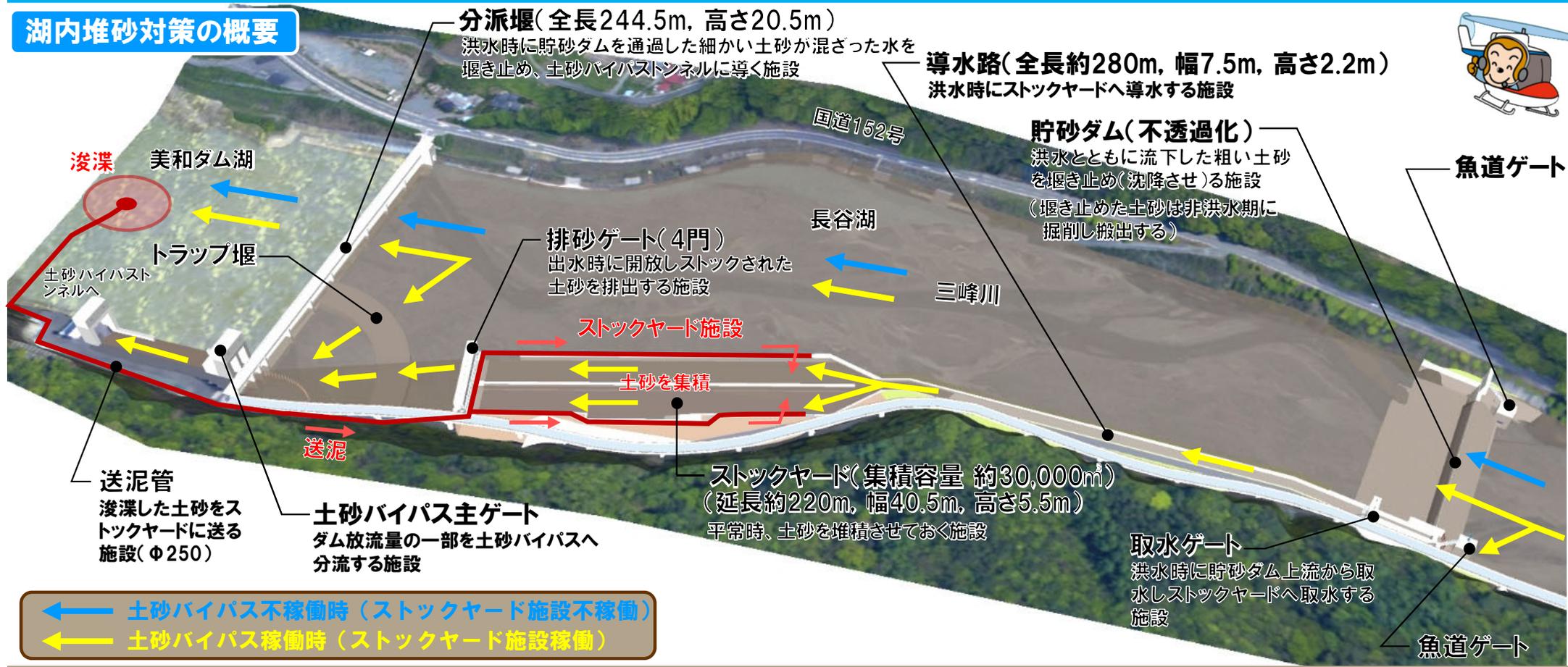
貯水池への土砂流入や堆砂を抑制しダム機能を保全します。

- ①貯砂ダム：粗い土砂を堰き止め沈降させ、非洪水期に掘削・排出します。
- ②分派堰：細かい土砂が混ざった水を堰き止め、土砂パイストンネルに導きます。
- ③土砂バイパストンネル：細かい土砂を下流に流し、貯水池への堆積を抑制します。
- ④ストックヤード施設：貯水池内に堆積した細かい土砂を浚渫しストックし、土砂パイストンネル運用時にダム下流へ排砂します。



ストックヤード施設の概要

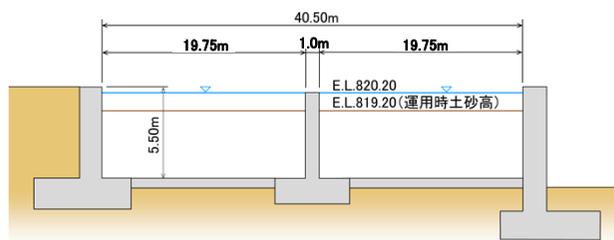
湖内堆砂対策の概要



湖内堆砂対策の主要施設

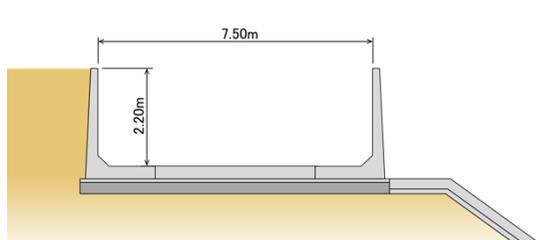
① スtockヤード

全長約220m, 幅40.5m, 高さ5.5m



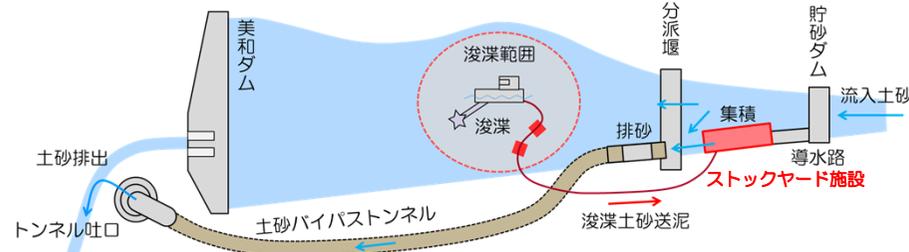
② 導水路

全長約280m, 幅7.5m, 高さ2.2m



湖内堆砂対策の仕組み

洪水時に分派堰を越えてダム貯水池内に流入し堆積した細かい土砂を浚渫してストックヤードに貯めておき、土砂バイパス運用時にダム下流へ排砂します。



土砂バイパス運用条件: 美和ダムで放流操作が行われる場合
土砂バイパス放流量 : 最大放流量300m³/s (1200 m³/s流入時)